

障連協にゅーす

第48号

発行日

2022年1月25日

発行者

特定非営利活動法人

旭川障害者連絡協議会

【目次】 ・市長メッセージ ・障害者週間記念事業報告
・理事長あいさつ ・各団体からの（昨年活動・今年の抱負） 報告



新年あけましておめでとうございます。



【市長メッセージ】

「新年を迎えて」



旭川市長 今津 寛 介

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、旭川市障害者福祉センター（おびつた）の管理運営業務や障害者週間記念事業の開催など、日頃から本市の福祉行政の推進に対し格別の御協力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げますとともに、長年にわたり障がいのある人の自立や社会参加の促進などに積極的に取り組んでおられることに深く敬意を表するものであります。

さて、昨年は、全国的に新型コロナウイルスの感染者数が増加し、北海道においても緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるなど、一昨年に続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年でありました。医療機関や関係団体等と連携し、接種体制の強化に取り組んでまいりましたが、今後も、社会経済情勢の変化を的確に捉え、3回目のワクチン接種やアフターコロナを見据えた各種施策を戦略的に展開し、市民の生命と生活を守るため引き続き尽力してまいります。

また、昨年は開催延期を乗り越え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が日本で開催されるという明るい話題もありました。本大会では日本人選手団のメダルラッシュに国中が沸き、コロナ禍の中でも厳しい練習に耐えて栄冠をつかむ姿は、多くの人に勇気と感動をもたらしてくれました。車イスラグビーでは、エースの池崎選手を中心にチーム一丸となり、見事銅メダル獲得し、夢と勇気そして感動を与えていただきました。本年2月の冬季オリンピック・パラリン

ピックにおいても、再び、日本のアスリートが素晴らしい活躍をされますことを期待するとともに、パラリンピックをとおして障がいの理解が一層進んでいくことを願っております。

結びに、本年が皆様にとりまして希望と活力に満ちた素晴らしい年となりますことを祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



「新年を迎えて」



理事長 松山 伸

新年明けましておめでとうございます！今年の干支は寅ですが、秩父サファリパークの寅は早々に大酒を飲まないのにいつも世話してくれている人を傷つけてしまう大失態をしでかしてしまいました。

毎年、新年の祝い酒が反省懺悔の酒に変わり大変な目にあったり合わせられたりと、終わることなく惨劇と笑劇が続いています。

昨年は新型コロナの感染拡大防止策で各団体の行事も中止に追い込まれ、おびつたでは休館措置が取れましたが、障連協の事業も障害者週間事業を除いて中止となりました。

12月の障害者週間事業では「カムイ大雪バリアフリー研究所」、「旭川パラスポーツ協議会」等の大きな支援のもと2020東京パラリンピックで車椅子ラグビーのメダリスト池崎選手を迎えて講演会を大盛況裏に開催することができました。

コロナウィルスは遺伝子の変異を「アルファ」→「デルタ」→「オミクロン」→？と呼称していますが、50数年前に医者ドラマのはしりの「ベンケーシ」タイトルの冒頭に黒板にチョークで「男♀ 女♀ 誕生* 死亡† そして無限∞」で始まったのを思いだしました。ウィルスとのお付き合いは生命体いわば細胞が地球上に登場したときから側にいる隣人みたいなもので、困った人も月日を経て良き隣人なるように変異するのを待ちましょう。

障害者「週間記念」事業開催！

東京パラリンピック2020 銅メダリスト 池崎選手 講演！
—私の競技人生は、仲間に支えられた—



12月5日、令和3年度 旭川市障害者週間記念事業が2年ぶりに、新型コロナの感染対策を徹底して人を集めて開催となりました。

今年のテーマは、「障害者スポーツ」。東京パラリンピックの車いすラグビー銅メダリスト池崎大輔氏を招き、記念講演をしていただきました。池崎選手は、「仲間の支えがあって続けられた。仲間を大事にしていきたい。」と仲間の大切さを熱く語られました。

その後、旭川パラスポーツ協議会 今野征大会長の司会で、障害者スポーツ団体の3名の代表者とパネルディスカッションを行い、普段の活動の様子や障害者スポーツの取り組む思いを語り合いました。



開会式には、今津寛介市長から挨拶をいただき、アトラクションに旭川大学・旭川短期大学部手話サークル「ド・レベ」の手話合唱、キッズチアダンス、最後にジンバイクラブ旭川のアフリカンダンスで来場者も一緒に踊りを楽しみました。この障害者週間記念事業での盛り上がり在今后の障害者福祉の向上に繋がっていきましょう。



各団体からの（昨年の活動・今年の抱負）報告

旭川盲人福祉協会



みなさん、新年あけましておめでとうございます。昨年は、大変お世話になりました。本年もよろしくお願い致します。

さて、盲人協会は創立70数年が経ち、先人の並々ならぬ苦勞から今の協会が成長しました。会員数も最高の時は130名ほど居ましたが、会員の高齢化と組織離れにより現在は60名となり、会員の減少により寂しくなりました。

しかし、会を存続させなければ、我々視覚障害者が住みよい、福祉豊かな街づくりにはなりません。会員一人一人が力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。

さて、約2年間「コロナ禍」状況が続いていますが、昨年11月下旬には、2年ぶり「会員親睦交流会」が開催され20名ほどが参加しました。久しぶりに合う会員同士での交流が盛んとなり、美味しい料理とともに、おしゃべりが絶えない和やかな雰囲気でした。カラオケは出来ないものの、アカペラで歌う方も居ました。更に、温泉にもゆっくり入れて、1年の汚れを落とすことができました。あっという間のひとときでしたが、参加者からは「楽しかった」との声聞き、心に残る交流会でした。今後とも、障連協の一団体として、協力して合って頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。

（会長 加藤健二）

旭川自閉症児者親の会



令和3年度は、コロナ感染リスクを下げるために人と人との接触を避けねばならず、様々なイベントを中止せざるを得ない状況でした。それでも、感染対策のために十分な距離をとってイスを配置し、座った状態やその周りで踊る形のエアロビサークルを実施しました。

令和4年度もオミクロン株の出現など、コロナ禍が完全に収束していない状況での活動になりますが、外を歩くガーデンウォーキングを再開したいと考えております。また、世界自閉症啓発デーに世界中で行われているライトアップイベント

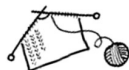
「Light it up blue」を、旭川市市民活動交流センター Cocode にて、旭川手をつなぐ育成会、ドンマイの会、ほか協力団体共催のもと開催します。これに合わせ、活動への旭川市長による応援メッセージのYouTube 配信も行います。さらに本

会は今年50周年を迎えますので、これまでの活動を振り返る写真展示も予定しています。皆様におかれましては、今後ともご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



（広報部 結城幸恵）

旭川アカシア会



1970年7月に誕生した当会は節目となる結成50年を超え今年の7月に結成52周年を迎えます。これまで、会員相互の交流を深め、近況報告などで悩みや雑談から要求を束ね活動してきました。投票所点検活動、まちづくり点検、街頭署名などこれまで様々に活動してきました。毎月の例会は大切にしてきたことの一つです。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡がり、毎月の例会はできなくなり感染拡大でおびつたが休館となり2020年度は4回の開催に止まることになってしまいました。マスクや消毒をはじめ、換気に配慮しながらの活動です。

ワクチンの接種が終われば集まれるのではと思っていましたが、デルタ、オミクロンなど変異株も出現して、いつ終息するのか不透明です。

久しぶりに集まると、やはりいつ終わるのか、先の見えない不安の声が聞かれます。そういう声も拾い上げ、今後の活動にも生かしていきたいと思っています。

これからも状況によって障連協の皆さんの力も借りながら活動を続けていけたら幸いです。

（代表 青木 利子）



一般社団法人 旭川身体障害者協会



新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は寅であります。なんでライオン、獅子でなく寅なのか？便利なネットでチョイとみると、神様が12干支を決めるときに獅子は悪事を働いたため除かれ、代わりに寅を入れたとやらです。酔っ払いを大虎とかと例えますが、チョイ昔は「ふだんは借りてきた猫のようにおとなしいのに酒が入ると虎になっている人が居たが、どこに行った？」

令和3年度は身体障害者福祉協会も他の団体と同様に文書による総会で幕を開けほぼすべての行事を中止としましたが、7月5日に室内で「スポーツ交流会」を開催しましたが参加者からは「顔をみながら話ができる！」と喜ばれ、対面行事の必要性を痛感しました

今年度の行事については様子を見ながらとて来ましたが、南の方から暗雲が近づいてくるようで、駄目か？と観念です。

来年度は延期になった「70周年記念行事」を12月頃に何とか実施したいものと考えています。

（事務局長 松山 伸）



一般社団法人 旭川翔輝会（カガヤキ工房）

新年あけましておめでとうございます。今年こそは良い年になるようにお祈り申し上げます。

まん延防止法、緊急事態宣言。昨年この言葉ばかりニュースで聞きました。“今日の感染者は〇〇〇〇人、過去最多の感染者数になりました”と連呼するマスコミ。東京オリンピック・パラリンピック2020においては過去最多の金メダルを獲得し、毎年清水寺で発表される“今年の漢字”では「金」。密を避けるために飲食店へは行かず宅飲みが流行り、生まれたのか“リモート飲み会”。飲食店はおかげで大打撃、店を閉める店舗も相続き、倒産・閉店が過去最高水準になりました。まさに紆余曲折の1年だったと思います。

当旭川翔輝会運営のパストラルも大打撃をもちに受け、5月・6月は前年比30%以下、9月は売上“0”、と工賃にも反映するほどでした。

新年こそはコロナウイルスに負けず、感染対策を徹底し皆元気に過ごせるよう望んでいます。

「春は必ず来ます！」



（副代表理事 高橋憲次）

旭川肢体不自由児者父母の会



昨年も新型コロナウイルスの影響により、例年恒例の夏レクや療育キャンプなど、多くのイベントを中止せざるを得ませんでしたが、感染者数が減少したことで、冬のレクリエーションは開催することができました。

当日は旭川福祉専門学校のボランティアの学生さんたちが色々なクリスマスの装飾や工夫を凝らしたゲームを用意してくださり、訪れた子供たちはマスク・手指消毒と検温を受付で済ませた後、思い思いに各コーナーを回り楽しみ、最後にはサントさんからクリスマスケーキを手にとニコニコの笑顔でした。久しぶりの集いができたこと、学生ボランティアの皆さんに感謝の一日となりました。

今年10月には、「全道福祉大会」を旭川での開催を予定しています。しかし、オミクロン株が増加傾向にあり、予断を許さない状況にありますが、開催の折には安心安全にできるよう今後準備に取りかかります。皆様、ご協力よろしくお願ひします。



（会長 浅野真一）

旭川障害者スポーツ協会



旭川市には旭川障害者スポーツ協会の他に旭川医科大学スポーツ医科学研究委員会・道北地区障害者スポーツ指導者協議会・旭川障がい者文化スポーツ振興支援会・カムイ大雪バリアフリーツアーセンターなど障がい者のスポーツを指導、支援する団体が多くあり、連携して「旭川パラスポーツ協議会」という組織をつくっています。

また、障がい者のスポーツイベントには、行政やスポーツ協会、観光関係団体などからの共催、後援を受けています。

本協会が支援している「全道ハンディキャップスキー大会」は毎年テイネスキー場で行われ、市の福祉バスで移動し、選手同士や選手の保護者、兄弟・姉妹と一緒に行動することで関係者全員がとても楽しみにしている事業の一つですが、コロナ禍で中止が続いています。

一日も早く新型コロナが消息し、安心して障害者のスポーツを支援できることを願っています。



(会長 速水 修)

一般社団法人 旭川手をつなぐ育成会



～新年を迎え、普段の生活を切望～

2020年1月15日、国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから、2年が経過。コロナ禍で迎える二度目の新年です。

その間、感染者増大による緊急事態宣言などで、三密回避、行動自粛を余儀なくされています。

当育成会も影響は大きく、毎年行っている収益事業「民舞祭」、「チャリティービールパーティー」が、2年連続の延期と中止となり、収支を悪化させています。

そのほか、総会は書面議決による開催、研修会、新年会などができていません。一方でオンラインによる会議、研修会への参加が当たり前ようになってきております。ただ、育成会の本人活動では、コロナ感染回避を図りながら活動を行っています。

今、第6波が叫ばれる中、コロナとの共存は避けられないものと思っていますが、新年を迎え、



ボウリング大会

普段の生活に戻ることを心から願うばかりです。

(会長 青山弥生)

旭川小規模障害福祉事業所連絡協議会

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

コロナウイルス感染症が発症して2年が経とうとしています。今年度は、慎重な感染予防対策を取りながら、もしくはリモートで活動を続けてきました。各事業所では、事業所内で感染させないよう蜜を避けマスクの着用と手指の消毒や換気に気をつけながら事業を継続し利用者や職員の健康を守ってきました。

旭川市からも様々な感染予防対策の支援があり心より感謝しています。

しかしながら、このコロナ禍で売上を落とす事業所もあり、工賃を稼ぎ利用者に分配する本来の目的に支障をきたす事業所があると聞きます。そこで旭川市主催で旭川市広域に配布されているライナーが「ふれーるふくし」という就労施設を応援するイベントを実施してくれました。就労施設を知らない一般の人に知っていただく良いチャンスと考えます。

今年もコロナ禍での活動になりますが、希望を持って活動していきたいと思います。

(会長 植西妃良)

旭川中途難失聴者協会



今年は特にコロナの影響で、おびったの休館が2度もあり、市から委託の要約筆記事業の中でも「要約筆記者養成講座」は、年度内に終えることができなかったか心配しました。

この事業は、要約筆記の全国組織とも繋がっていて、通訳者の資格試験が年度内に実施されるためです。

この講座は、大勢の関係者のご協力があって成り立っています。聞こえない者を書いて伝えるのは、文字が書けるだけでは難しいのです。「早く・正しく・読みやすく」が要求されます。毎年5月から講座は始まります。書き方の勉強は、どんな仕事にも役に立ちます。是非受講してください。



青空交流会

要約筆記の勉強をした「ひよこ」が成長し、私たちが社会に参加できるように支えてくれます。いかに機械が発達しても要約筆記者は私たちに光をさしてくれます。これからもずっと。

(会長 大橋美智子)



新年を迎えました。皆様、どの様にお過ごしでしたか。新型コロナの拡大により、2年続きの自粛ムードのお正月となりました。障連協の新年交礼会も中止となり、行き場のないストレスに冬の寒さが身に染みます。今年が良い年にしましょう。

発行日／ 2022年1月25日
編集／ 特定非営利活動法人 旭川障害者連絡協議会
発行／ 理事長 松山 伸

住所／ 旭川市宮前1条3丁目3番7号
障害者福祉センター「おびった」3階
Tel・fax／ 0166-31-2226

